

令和6年度学校関係者評価委員会 議事録

1. 日時 令和6年6月8日(土) 13時～14時30分
2. 場所 101 教室
3. 委員 ☐ 島根県看護協会理事 田中 真美 ☐ 島根県臨床工学技士会会長 錦織 伸司
☒ 島根県理学療法士会 石田 修平 ☐ 出雲西高等学校校長 永島 弘明
☐ 今市コミュニティーセンター センタ長 打田 祥一
☐ 保護者代表 橘 厚子 ☐ 卒業生 代表 影山 元
☐ 橋本学校長 (ZOOM 参加)
☐ 神田副学校長 ☐ 今村事務局次長 ☐ 落合教務部長 ☐ 内井事務副部長
☐ 鎌田学科長 ☐ 荒木副学科長 ☐ 加藤学科長 ☐ 阿守学科長

(■は欠席者)

ZOOM (発信元出雲医療看護専門学校)

<https://zoom.us/j/94801574627?pwd=uB49mRjWHYPMA6t0JfBhbKqMT9RKM6.1>

ミーティング ID: 948 0157 4627 パスコード: 738797

議事進行: 錦織 議事録: 加藤

4. スケジュール

時 間	内 容	担当
13 時 00 分 (15 分)	1) 開会 2) 学校長挨拶 3) 学校関係者評価委員会の説明 4) 自己紹介 5) 議事 ①学校運営について (5 分程度) ②自己点検評価結果より意見交換	【対応責任者】 I 教育理念・目的; 今村 II 学校運営; 今村 III 教育活動; 落合 IV 学修成果; 落合 V 学生支援; 落合 VI 教育環境; 内井 (実習関連含む) VII 学生募集と受入れ; 内井 VIII 財務; 今村 IX 法令等の遵守; 今村 X 社会貢献地域貢献: 落合
13 時 15 分 (75 分)		
14 時 30 分	6) 閉会	

【議事録】

落合教務部長

これから出雲医療看護専門学校関係者評価委員会を開催いたします。本日はご多忙のところ本校のためにご参加いただき誠にありがとうございます。本日委員数 16 名中の 15 名の出席となっております。学校関係者評価委員会規則第六条の 2 の 4 条より本委員会が成立していることをご報告します。本日は会議の議事録を作成するため会議内容を録音させていただきますことをご了承お願いします。本来であれば委員会を招集し委員の中から進行を行う所ですが、今年度は学校関係者評価委員会の更新の年にあたりますので委員会のメンバーの再編成を行っております。そのため委員長の選出までは事務局で会議の進行をさせていただきますのでお願いします。進行を担当いたします落合と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本委員会は 1 時間半と短時間ではありますが必要なお意見を頂戴しながら円滑な進行をしてみたいと思っています。はじめに本学校長橋本よりご挨拶を申し上げます。橋本学校長よりよろしくお願いいたします。

橋本学校長

学校関係者評価委員会にご参加いただきまして誠にありがとうございます。コロナウィルス感染症が縮小傾向に入り、出雲医療看護専門学校も平常時の運営になりました。学生・ご父兄にはご心配をおかけしました。本日は 2023 年度の学校関係者評価委員会を開催する運びとなり、数多くの委員の先生方にご参加いただいたことを改めて厚くお礼申し上げます。

職業実践専門課程は 2014 年度により文部科学省が新たに創設した学校の制度になりますが、出雲医療看護専門学校も職業実践専門課程が認可され、今年で 5 年を迎えます。今現在専門学校が全国で 2721 校ございますが、認定校は 1093 校になります。40.2%の学校が認定されています。また、学科総数は 7288 学科あり、認定学科は 3165 学科で 43.4%の認可になります。職業実践専門課程は職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成することを目的とし専攻分野における実務に関する知識技術および技能について組織的な教育を行うもの文部科学大臣が認定し奨励することになっております。専修学校専門課程における職業教育の水準の維持向上を図ることを目的としております。

学校法人大阪滋慶学園の出雲医療看護専門学校は今年、創立 12 年目を迎えております。学校の教育ミッションは「高等職業教育を通じて社会に貢献する」、具現化するための建学の理念として実学教育・人間教育・国際教育を掲げて実践活動をしてまいりました。少しばかりその成果を紹介したいと思います。本校は看護医療の実践活動を中心としております。看護学科卒業整数が 493 人、看護師免許取得者数は 488 人、看護師取得率は 99%でございます。理学療法士学科卒業生数は 200 人、理学療法士免許取得者数は 175 人、理学療法士免許取得者率は 87.5%です。臨床工学技士学科の卒業生数は 130 人おり、臨床工学技士免許取得者数が 126 人、取得率が 96.6%になります。学科を廃止しましたが言語聴覚士卒業生数が 84 名、言語聴覚士免許取得数は 72 名、取得率が 85.7%となります。

学校法人大阪滋慶学園では免許取得率を 90～95%を目指しております。このような人材養成は島根県を中心に多くの仲間が病院や施設に勤務されておられます。大変嬉しいことです。

各学科の目標資格取得に向けて学校は支援し、就職内定 100%を達成して参りますので委員の先生方もご支援をよろしくお願いいたします。本日出雲医療看護専門学校の 2023 年度の自己点検自己評価報告の説明があります。委員の先生方のご意見をいただきましたら大変嬉しく思います。

以上で学校長の最初のご挨拶とさせていただきます。本日はよろしく申しあげます。

落合教務部長

橋本学校長ありがとうございました。続きまして学校関係者評価委員会について事務局次長の今村より説明さ

させていただきます。

今村事務局次長

2013 年の 4 月に本校が開校した当初言語聴覚士の学科がありましたが、時代の流れ等々があり閉科をし、その代わり医療総合学科という医療秘書・医療事務それから健康運動の指導者を育成する 2 年生課程の学科ができております。職業実践専門課程は先ほど学校長のほうから説明がありましたが、この課程の認定を受けるにはいくつかの条件があり、例えば就業年数が 2 年以上で学ぶ時間が 1700 時間以上または 62 単位以上であり、この学校関係者評価委員会をしっかりとやっていかなければいけないという規程があり、医療総合学科以外の看護学科・臨床工学技士学科・理学療法学科については認定を受けています。

医療総合学科はようやく卒業生が出ましたので今から申請をして行くことになろうかと思います。自己点検自己評価は昨年度の評価に基づいてすべて学内で評価をしておりますが委員の先生方の方からの忌憚のないご意見と今年度それから来年度に向けて改善して良い学校づくりをして行きたいと思います。是非忌憚ないご意見を一つよろしく願いいたします。今日はどうぞよろしくお願いいたします。

落合教務部長

今村次長ありがとうございました。

最初に先ほどご説明しましたとおり委員長昨年で任期が終了いたしました。それに伴い委員長の選出する必要があります。委員のみな様より選出をさせていただきますがすぐに決めるのは難しいと思いますので特にご意見がないのでしたら事務局に一任させていただきます。島根県臨床工学技士会会長の錦織様に委員長をお願いしたいと思います。これより司会進行を錦織様よろしく願いしたいと思います。

錦織委員長

今年度より新しい委員も入りましたので自己紹介から参ります。

自己紹介

打田→永島→田中→橋→景山→錦織

錦織委員長

皆様にお配りしております自己点検自己評価の資料をもとに、まず項目ごとの説明を学校側よりお願いいたします。

今村事務局次長

1 枚目の説明の方に入りたいと思います。委員の先生方におかれましては今年度から委員になっていただいたこともありますので、少し学校を取り巻く環境や一昨年でこういう取り組みをお話させていただきたいと思います。お手元にクリアファイルにクリップ止めをしたリクルート進学総研と書いた資料があります。今年の 2 月にリクルート進学総研の方が今の状態を社会的な背景でまとめられたマーケットレポートがありましたので、そこから少し抜粋をさせていただいております。

まず 1 枚目ですが、18 歳人口の予測で昨年度の 2023 年から 2035 年までの 10 年間に 18 歳の人口がどのように推移するかという資料で、島根県は昨年 5986 人で、2035 年には 5310 人でおよそ 670 人が減少。88.7%まで落ちてしまいます。進学率と進学者数の推移では専門学校を含めた高等教育機関にどれくらい進学したかということでは、島根県では昨年高等学校卒業された方（通信制は入っておりません）が 5512 人で、高等学校を卒業され専門学校に入られた方は 1248 名と 22.6%である。5 年前の 2017 年では高等学校を卒業された方が 6183 人、専門学校進学者は 1451 人で割合が 23.5%であります。このような形でずっと推移をしています。これが今の高校

生の動きだというのをわかっていただけるかと思います。地元残留率の推移というものがありますが大学の方もしくは短期大学に入学される方は日本全国から来られますので地元の方だけではありませんが大学で島根県の場合は、昨年度の地元残留率が 19.9%。10 人のうち 2 人だけが島根県から入学して 8 割は県外から入学されています。入学者流入元では広島から 170 人のかたが入って来られています。島根県から流出する高校生も広島に大学にたくさん行かれ、その次が大阪、岡山となっています。出雲市の人口は 17 万人ぐらいですが、高等学校を卒業された 1500 人のうち進学される方が 78%で、1170 人。県外流出が半分の 52%であり、なおそのまま県外に就職される方が 38%となっております。

出雲医療看護専門学校は出雲市との公私連携で歩んできていますので、できれば島根県で高校卒業された方は医療福祉に興味がある方はぜひ一度確認していただき、専門領域でこの島根県出雲市を中心とした病院施設で働いてもらうことが一番理想だと考えています。昨年 5 月にコロナウイルス感染症が 5 類に移行したということで、今まで溜まっていた鬱憤が弾けるかのように高校生は県外へと出て行くことが多くなりました。しかし今年は高校 2 年生の方々が比較的県内で学校を探そうという動きがあるようで、去年に比べて今年の募集活動はうまくいっている状況になります。

それでは、学校理念目的の説明をさせていただきます。評価項目は理念・目的・育成人材像が定められているか、人材育成は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか、理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるかと、社会のニーズを備えた将来構想についてです。評価の段では昨年度の評価もつけており、そこから今年はどのように改善したかがわかるようにしております。

一昨年の評価をもとに改善をしながら令和 5 年度を進めてまいりました。特に大きな変化はありません。社会のニーズを踏まえた将来構成のところはコロナの影響でオンラインを使ったやり取りを、授業や遠方の保護者様との面談を、今まで電話でしていた形からズームを使ってオンラインで実施したり、採用試験もオンラインで近畿圏の病院とやりとりしたりなどを行いました。オンラインを今後どのように行っていくのかが大きな課題になってくるかと思っております。

ペーパーレスの中で看護学科では iPad の中にすべて教科書が入っています。極力、紙を使用せずデジタル教科書を使いながら、もしくはデジタルノートを使いながら授業を進めていっております。いずれ理学療法士と臨床工学技士についても同じにデジタル化を進めていきたいと考えています。

実学教育・人間教育・国際教育に基づいてそれぞれの評価を上から 4, 3, 3, 3 にしております。

続きまして学校運営では当学園の理念に沿った運営方針を定めていますが、理念を達成するための事業計画を定めているか、設置法人は組織として適切に行っているか、学校運営の組織を整備しているか、人事・給与に関する制度を整備しているか、意思決定システムを整備しているか、情報システム化に取り組み業務の効率化を図っているか、というのが評価項目になります。評価の方は上から 4, 4, 4, 3, 4, 4, 3 で昨年度と変化があるのは上から 4 番目の学校運営のために組織を整備しているか、というのが昨年度は 4、令和 5 年度は 3 と評価を 1 つ下げています。これは組織の中に委員会や会議がありますがコロナ禍ということで学内を落ち着かせるところが精一杯で、決まった予定の委員会しか開催していなかったなど、また教職員自体もコロナに罹患してしまい、休暇があったりなどもあり、システム自体はありますが予定通りに進みませんでした。

「情報システム管理の取り組み業務の効率化を使っているか」では、文部科学省が発表しています教育情報で、セキュリティのところでガイドラインを作っております。それに基づいて大阪滋慶学園は法人としても出雲医療看護専門学校としても、もう少し整備していかないといけないだろうという、ということで評価の方は特に変えておりません。学生 1 人 1 人が自分のデバイスを持って学内でそのデバイスを使います。各人の iPad やノートパソコンでインターネットを使いますので、セキュリティは非常に問題になってきます。私たち教職員、それから講師の先生方も著作権の問題が出てきますので授業にどのような教材を使うのかとか、どのようなレベルまでだったら使っているのか、そのあたりのラインづくり基準を今後しっかりと進めていきたいと思っております。

落合教務部長

教育活動においては昨年度とあまり変わっておりません。作品及び技術等を明確にしているかではパソコンの環境や office365 の導入をして全学生にアカウントを配布しております。就職に対しての成果は前倒しになっており看護学科は 4 月より活動しております。今年度の実績を踏まえながら学校関係者評価委員会での意見を参考に改善を図っていく必要があると考えております。

教育課程の編成のところですが国家資格系は基準があるため、国家資格合格に向け段階的に効率よく 1 年、2 年、3 年終了時に定期試験の点数や課程についての意見を参考に実践できるようにしております。

授業の内容を充実させて授業終了後、学生へアンケートを取っております。そのアンケートに基づいて担当教員にフィードバックをしておりますが、今後の評価内容をどのように改善していくかを検討する必要があります。非常勤講師へフィードバックの方法についても検討が必要です。

進級判定などについては学則に基づいて卒業判定会議、進級判定会議、修得単位認定会議などを通して成績評価や出席状況から行っております。

卒業研究発表などを開催して毎年学習成果を業界や保護者に向けて発信をしております。これらの取り組みについては、より多くの方に発信できるような仕組みづくりをしていきたいと考えております。

国家資格の取得については養成課程の最重要目標として位置づけております。この目標については学園グループの国家試験対策センターと学内の国家試験対策委員会が連動して教育内容を確認しながら取り組んでおります。全員がひとつひとつクリアできるように対策講座の充実や授業方法などどうするかなど資格取得向上のために引き続きセンター連携等の取組を実施していきたいと考えております。

教育効果向上に講師研修等を実施し、情報の共有に務めております。

学習の項目では就職率の向上が図られているか、資格取得率の向上が図られているか、卒業生の社会的評価を把握しているか、についてですが昨年度と変わりありません。

就職は、毎年就職率 100%継続しております。また最終学年だけでなく 1 年生よりキャリアデザイン講座や就職フェアなどを行い意識向上に勤めております。求人について看護学科以外は県内求人の新規開拓と拡大を引き続き行い求人確保を強化して行く必要があると考えています。

卒業生について毎年業界訪問にて、働く上での課題と卒業生の状況を教えてもらっております。学生支援に関しては、評価項目は就職進路に関する支援組織体制の整備、学生相談の体制を整備、留学生について、学生の経済的支援、学生寮など生活環境支援、課外活動に対する支援、保護者との連携、卒業生との支援、産学連携、社会人のニーズを踏まえた教育内容の整備があります。また卒業生の社会的評価についてはキャリアセンターと確認をし、情報共有に努めております。

在校生の学習の状況を確認しながら対面を中心として、個別や全体で補講などの対応を行っております。

また就職フェア等を行うことで就職に対する意識付けを行っております。それと大阪校主催の大阪での就職フェアもありますので有効活用ができるよう引き続き検討して行きたいと考えております。

学生の生活状況は学生サポートアンケートを実施しておりますので、有効活用と早期の学生の変化に対応し、すぐに面談等を実施して保護者様への連絡をしております。スクールカウンセラーやメンタル面のサポートを共有しておりますので学校全体でサポートを行っております。引き続き退学要因の原因とその対策、学生サポートアンケートやスクールカウンセリングの面談を充実させていく必要があると考えております。

学生相談に関する体制を整備しているかについては、入学前の学校説明会を使い保護者様を対象として説明会や勉強面でのサポートの説明を行っております。オリエンテーションを通じて学生へ周知をしております。またメンタル面の対応についてもサポートしてグループのトータルサポートセンターが運営しておりますスクールカウンセラーなどオンラインを利用してつなぐ必要があると考えております。

学費については奨学金制度を利用しております。まず日本学生支援機構の修学支援制度等も活用しております。引き続き学費の未納をなくす体制づくりと早期から保護者様学生への状況確認を取り組んでいく必要があると

考えております。

課外授業について今後も学生の自主性も考えながら学生の希望を実現できるように体制を整えて可能な限り支援していこうと考えております。

学生状況に応じて、その都度電話連絡を行ったり、何か学生から要望があれば面談をしたりと学生からの声も聴取しております。その時の記録等も業務システムに残すようにしておりますので、今後は保護者の状況の準備して行く必要があると考えております。

卒業生の支援ですが、卒業生を対象とした研修会や再就職などの相談はキャリアセンターを利用し、行っております。学園新聞を通じて周知し、利用してもらうようにしております。さらに利用を向上するために内容の検討をしていく必要があると思っております。

国際交流については、昨年はオンラインで行い、内容を変えておりますが、提携している海外の大学と交流を図ることができ、幅広い価値感を得ることができるよう内容としております。海外研修以外でも出雲は外国人の方が多いですので外国人のためのボランティアなどで国籍の交流を図ることも検討していければと思っております。

内井事務副部長

教育環境・学生募集については内井から説明させていただきます。まず教育環境については、教育上の必要に十分対応した施設・設備・教育用用具等を設備しているか、学外実習・インターンシップや海外研修等の実習体制を整えていますか、防災に対する組織体制を整備しているか、学内における安全管理体制を整備し適切に運用しているかこの4点の項目になります。評価に関しましては昨年と同様とさせていただいておりますため簡単に全体の説明をさせて頂ければと思います。施設設備につきましては長期修繕計画を立てまして大規模改修を計画的に実施して計画をしております。学校ではなくグループとしてメンテナンス会社がありますので、そこと連携しながら緊急を要するものかというところを見ながら修繕しているというところになります。教育用具等は必要時期に購入し、また新カリキュラムになって必要になってくる備品を優先的に購入しております。学外実習に関しては実習要項に目的を明確にして取り組んでおります。即戦力を排出するために実習施設様と連携または、この後あります教育課程編成委員会の方からいろいろなご意見をいただきながら改善していきたいと思っております。昨年はコロナウィルス感染が5類になったところもありますが感染対策というところを含めて効果的な実習ができるようにいろいろなご意見をいただきながら、よりよい実習環境づくりを今後も取り組んでいきたいと思っております。

建学の理念にありますように全学科で海外研修は必須となっております。本来なら先ほど落合教務部長が申しあげましたが海外渡航でできればよいですが、今現状は経済状況もあり、オンラインでの研修となっております。昨年卒業生代表の景山様からもらった意見のようにやはり現場に行くと学びがかなり広がりますが現状オンラインとなっております。視野が広がるような内容ができればよいと考えております。

最後に緊急事態いつ起こるか分からないということもありますので、まず学園の危機管理マニュアルを作成しております。私（内井）も出雲にきて5年目になりますがやはり雨風特有な環境もありますので、出雲独自の危機管理マニュアルを作りながら体制づくりを進めております。本来なら避難訓練を年に1回は絶対に行っておりますが昨年は年2回行いました。5月で新入生に避難経路の確認をし、2回目で地震訓練と両方訓練できるよう取り組みをさせていただきました。実習などで教職員が少ない時ありますのでそのようなことも検討し、体制作りを行い、告知せず突然行う避難訓練の実施も検討が必要と考えております。

すべての項目は昨年度の評価と同じですが、できることはまだあるということで評価を全て3にさせていただいております。

学生と募集の受け入れについて説明させていただきます。高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか、学生募集活動を適切かつ効果的に行っているか、入学選考基準を明確化し、適切に運用してい

るか、入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか、経費内容に対応し、学納金を算定しているか、入学辞退者に対し、授業料等について適切な取り扱いを行っているか、の6点あります。昨年の評価として一番上と二番目（高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか、学生募集活動を適切かつ効果的に行っているか）が3という評価をさせていただいております。

接続教育機関に対する情報提供というところですが、我々高等学校を中心に直接訪問させていただいて入学生そして卒業生・在校生の報告を定期的実施させていただいております。また高等学校の方でも説明会という時間をいただいて積極的に参加させていただき、学園の考え方である教育システムの入学前教育で職業理解を大切にして、ひとりひとりの高校生の進路に向き合っております。それだけではなく、臨床工学はなかなか職業認知がまだできてないというところもありますので臨床工学を中心に高校生だけではなく中学生・小学生へ職業啓発活動を行っております。色々な取り組みをしていますが、やはり入試では高校の先生のニーズに合わせてAO入試・指定校推薦入試・クラブ推薦入試そして推薦入試・一般入試の入試制度を設け、高校の先生方と話をしながら設定させていただいております。評価に関しては2にしたのは色々取り組みをさせていただきましたが、高校生が昨年、高校3年生でオープンキャンパスに来ていただいた方は300名ほどいました。しかし最終的に入学していただいた方が119名であり、入学されたが減少したため、評価を下げております。出願される方の人数は2年前と変わっておりませんが、委員の先生方から貴重からお話がありましたように看護学科では県外に進学と合わせて県立大学や県内の公立の専門学校への進学もあり、受験希望される方自体が少なくなっております。昨年は20名ほど本校の入試を合格しても入学されないケースがありました。

入学の選考の基準は、受験の状況で面接の評価、科目試験を行い入学後に活用できるように入学前教育を学校の中の1つとしておこなっております。その後まとめ試験を行い入学サポートができるような体制を取り入れております。

学納金に関しては募集要項に明記し、諸経費に関しては物価高騰もありますのでギリギリまで精査しながら選定し、3月にはご案内しております。基本的にはご案内させていただいた金額以上の金額を年度の途中で徴収することは原則ないと案内しております。各ご家庭に安心していただけているのではと考えております。

今村事務局次長

次に財務について説明させていただきます。財務基盤は安定しているか、学校の法人の主要な財務数値に関する財務分析を行っているか、教育目標との整合性を図る単年度予算、中長期計画を策定しているか、予算及び計画に基づき適正に執行管理を行っているか、私立学校及び寄附行為に基づき適切に監査を実施しているか、私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し適切に運用しているか、という項目になります。設問の点検項目に法人及び学校とありますので高等学校・大学・大学院設置しております。文部科学省管轄の法人ですのでさらに厳しくしっかりとしております。ただ出雲の学校になると先ほど内井の方から話が出ましたが、入学定員を達成できておりません。学校自体の収容定員充足数が530名で今在籍が330名程度なため、200名程度減少しております。予算を立てるときや、予算を消化しているときなども人数を考慮して行かないといけません。そのため一番上の財務基盤を安定しているかは昨年の評価よりも少なくしております。

次に法令等の厳守ですが、法令や専修学校設置基準を遵守し、適正な学校運営を行っているか、学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか、自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか、自己評価結果を公開しているか、学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか、学校関係者評価結果を公開しているか、教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか、という項目になります。本日の会議も含めてこの教育課程編成委員会がありますが適切な実施、それから運営ができるように取り組んでまいりました。評価表の右手に具体的な取組みと今後の課題を記載させていただいております。情報の公開となったとき、どこまでの情報を誰のために載せていくのかという問題が出てきます。教育情報についてこれでよいというものがないかもしれませんが、私たちとしては学校に関わる方々に見ていただいて、私たちの学校はこのような学校だ、というの

がご理解いただける範囲であれば情報公開することにしております。ホームページに情報公開というタグを作り、こちらのほうから全て見るできるようになっているため教育情報に関する情報公開を積極的に行っているかは、前年度3から4の評価をしております。

ホームページの中での閲覧をどのように見やすくするか、パソコンではなく、スマートフォンとどのように連動させるかの検討が必要です。ページの位置によって本当は表示されなければならない情報が探しきれなくて見ることができなかったというものがいくつかありました。本当に誰が見ても情報にたどり着けるような形でなければなりませんので、見やすさ等は今後も検討していく必要があります。

錦織

評価につきましてご意見がありましたらよろしくお願いします。

田中委員

現在は実習病院においても看護師確保されている状況があります。大学病院の看護師になる方も少なく、職業意識は入学してからではなにか違ったなどあります。職業意識等は高校時代に職業に向いているか、向いていないか、そのような見極めをしていただけると受け入れ側もすごくよいと思っております。現在色々な高校に看護協会の方に行ってもらい話をしてもらっている状況ですが、保健師・助産師にもなれる・看護師の免許を取得した後どのような方向性があるのかという話をしていくことも、必要と感じております。学校で職業説明に行ってください活動は非常に高校生にとって効果的であると感じております。

橘委員

学校の退学率が非常少ないのはよいかと思えます。しかし先生が寄り添っていただいておりますが、社会人の方でも非常にメンタル低下が問題になっております。どのような取り組みを行っておりますか。

落合

スクールカウンセリングの方が週に1回、必要に応じては2回来校してもらい対応してもらっております。保護者様の方にご連絡をさせていただいております。またメンタル面以外の連携も考慮しており、障害者支援センターに連絡を取らせていただいたりしております。なかなか入学前にメンタル面がわかることがないため、学生として入学して来られたらキャリアサポートアンケートという睡眠時間とっていますか、アルバイトしていますかなど色々な心情が把握できるアンケートを取っております。その結果が9月10月ぐらいでフィードバックされますのでその結果を中心に学科で個人的な把握をして行いきますが、学生自身の問題よりも親御さんの問題や、クラスの友人関係などでも変化があります。

橘委員

専門的な科目もあり高校生の時と比べても環境がかわります。保護者としても免許取得を目指して頑張らせていきたいと考えております。

就職される学生は県外の方が多いでしょうか。

内井

今年県内就職に関しては60%程度です。看護学科の県内就職は60%を超えています。他の学科では欠員募集のような形で出されるところが多く、定期的に出はおりません。

橘委員

卒業後も就職支援などがあると聞いておりますがどのくらいの学生が利用しておりますか。

落合

どのくらいの割合は出しておりませんが、卒業生はよくキャリアセンターを利用し、再就職や進学の相談を受けております。割と利用されるケースがあると考えております。

永島委員

学生支援のところの退学率低下に関しての評価が2であるが3であってもよいと考えます。学校の先生方も頻回に学生の相談に乗っていただいております。先生方との距離も近くよい関係性もできているように思います。

医療職という仕事の性質上もあるため特性を持った生徒たちも増えております。努力をした結果退学を防ぐのが難しいというのはやむを得ないと感じます。適性がないことがわかっておりながら医療職に就かせるということに無理を感じます。ある程度はやむを得ないのではないかと考えております。

業種的に語学教育の重要性が増してきております。外国籍対応や外国の方と接する機会も増えております。特に英語が多く、実際に働く段階で求められることがあります。国際教育もその一環であると考えますが、語学教育に関しての今後どのように行っていくですか。

今村

2017 年ごろに海外研修先の方々とつないで英語を学べるプログラムを作る話があり、教職員も外国人の方を雇用し英語教育の方を導入し対応しようという声も出ていました。しかし、コロナ禍に入り、この話が延期になりました。アメリカ本国は海外国際交流する部署がなくなりアメリカの国内の教育を優先する動きになっております。もう一度提携をし直し研修準備はしておりますが、物価高騰もあり、今までやっていた時代と同じ研修を行うと 70 万ぐらいかかってしまいます。アジアが落ち着いてきており中国研修は行えております。学科の履修内容によって研修先の決定の見直しをしなければなりません。

打田

今市のコミセンの祭りで多くの学生にボランティアに来ていただきうれしく思っております。毎回様子を見ておりますが、1 年生が多く、入学して 1 ヶ月ぐらいのところに来てもらっているのかと考えております。今年の学生も一生懸命取り組んでくれますし、あの男女関係問わずすごく仲がよく、雰囲気がいいなと思っているので、是非 1 年生に限らず 2、3 年生もボランティアに来てもらいたい。そのほかに地域ボランティアなどを行っておりますか。

落合

出雲市のボランティアは毎月来ており学生が自主的に行っております。結構ボランティアに参加する学生は多いです。

打田

学園祭や健康測定など学校へ地域の皆様を呼べる取り組みを継続して行ってもらいたいと考えています。

景山

学生の募集と受け入れに関して 2 を付けておりますが 3 でもよいと考えております。情報共有等も高等学校等へ届けており 3 でもよいと感じます。面接のときに学校を選んだ理由を話すと思いますが、面接練習などで取り繕

っていることもあると思います。入学後に本当になぜこの学校を選んだか等のアンケートをとってもよいと思っています。実際に選んだ理由を入学後聞くことで募集につながると感じました。

教育活動では、就職してからどの職業でもチーム医療が大事だと思いますがどのような取り組みをされておりますか。

落合

それぞれの学科の科目にチーム医療に関することをいれております。他学科と交流できるような授業形態をとっております。また入学してすぐに三瓶研修を行い、チーム医療を学ばせております。

錦織

退学率ですが他の学校と比べて退学率は高い方なのでしょうか。

内井

専門学校大学ではだいたい退学率 4%くらいですので学園としても 4%を目標にしております。しかし医療系専門学校の退学率は全国的に高い数字となっているため本校の退学率は少ないことがわかります。

錦織

心の病は入学する時点ではわからないことがおおいと思います。さらに環境で心境の変化はあります。メンタリティをコントロールすることが非常に難しいことがわかります。

臨床工学技士はまだまだ認知不足であり、同じ職場の方より臨床工学技士になるために広島为学校へ行っていると聞きました。出雲でも学べることを話したら知らなかったという事例もあります。極力県内で完結できるのであれば地元の学校で学び地元就職ができるということが一番うれしいと思います。学校の活動に頑張ってもらいたいと感じております。高校への説明は島根県の高校のみでしょうか。

内井

島根県全県の学校へは定期的に資料をもって回らせていただいております。臨床工学技士に関しては中国地区全域が対象となっておりますので山陰のみではなく山口・広島・岡山の高校へも行かせていただいております。また高校の中で開催される進路説明会に関しては1年生対象、2年生対象ということもありますが要望に沿って説明させていただきます。また職業に興味を持っていただいた方には背中を押す後押しをさせていただきます。

錦織

コロナで臨床工学技士が有名になった反面、大変な仕事なんだという認知になり、なり手が少なくなっております。若手獲得に学校と全面的に協力していきたいと考えております。

田中

看護師が難しいので進路変更等を途中でも学校の特性の中で変更できればよいと考えております。そのような進路変更はできるのでしょうか。

内井

国家試験は指定規則に準じているためなかなか単位認定ができなく途中変更は難しいですが、法人の方で進路変更委員会がありますので学生から将来設計を聞きながら学内・法人を通じて紹介しております。

永島

募集の受け入れについてですが、実際入学してくる生徒たちの学力はだんだん落ちている傾向はありますか。大学の先生方とのお話をしておりまして以前に比べ落ちていると言われる大学もあります。

落合

成績は落ちてきております。以前に比べても年々下がってきているように感じております。全国的に学力低下があり、大学、専門学校問わず学力低下は言われております。しかし医療系は高校では学んでおらず全員ゼロの状態からスタートするため頑張った学生ほど成績が向上していきます。高校までの学力が全てではないと思っております。

永島

少子化のため勉強をしなくても高校、大学へ入学できてしまう学校は存在しています。勉強するという大切さをどのように教えていくか、どのようにモチベーションにつなげて行くかがすごく大事だと思っております。勉強の習慣が確立できていない生徒が進学していくため大変さはあるのではないかと考えています。

落合

学生の情報共有を高校の先生と共有していくことでできることはあると思います。やはり連携が大切だと考えております。

永島

進学する前にどのような勉強をするのかがわかるとモチベーションも上がってくると思っています。高校側と専門学校側でうまく接続することでレベルアップにつながればよいと感じております。

学生自身が客観的に評価できる力を伸ばすための取り組みはどのようにされておりますか。

落合

学科によって違いがありますが、授業の中ではコミュニケーション論であったり、人間関係論であったり、心理学であったりと専門の先生方に教えていただいております。特別教員が何かをするということはありませんが、実習などを通して自己認識をさせていきます。

錦織

全ての評価が終わりました。お時間の関係もありますのでこれで学校関係者評価委員会を終わらせていただきたいと思います。

神田副学校長

世の中でもコンプライアンスやガバナンスが問題となっております。学校としてもコンプライアンスやガバナンスを重視しながら行っていかなければなりません。私（神田）も5年前こちらの学校へ来ましたが、近年はそのときよりも色々な方とお話をさせていただき、よいお話を聞かせていただくこともありました。市民の方々のご支援もいただいており今後ますますの発展が必要と感じております。

学力の話も出ましたが鳥取県の平均値が上回ったということでこの1年間どのような取り組みでアップしたのかと考えております。語学と言えは英語・外国語ですが、学生自身も、きちんとした日本語ができていません。これからもご支援いただきながら鳥根県でよい人材育成をして学校自身もメタ認知をし、競争を生き残っていき

たいと考えております。今年で 12 年ということは干支で言えば一回り終わったので、更なる発展していかなければならないと思っております。本日は長時間にわたりご指導ありがとうございました。

以上